

モモせん孔細菌病の発生に注意しましょう

県予察圃場では、4月下旬の発病葉率が平年よりやや高く推移しています。4月下旬の発病葉率が高い年は、その後の5～6月の発病葉率も高くなる傾向があります。今後の降雨によって発病が助長されるおそれがあるため、防除を徹底してください。

●モモせん孔細菌病について

モモせん孔細菌病は、葉、枝、果実に病斑を形成する細菌性の病害です（図1、2、3）。葉では、葉脈に囲まれた淡黄色の多角形病斑を生じ、のちに病斑部が脱落して穴があいたようになります。果実では、針で刺したような褐色の病斑を生じ、商品性の低下につながります。また、多発すると早期落葉を引き起こし、樹勢や翌年の生産にも影響するおそれがあります。

本病は春先から発生し、降雨や風雨によって感染・まん延しやすくなります。特に生育初期の発病が多い年は、その後の発病葉率も高くなりやすいため、初期発生の把握と防除対策が重要です。



図1 葉の症状



図2 春型枝病斑



図3 果実の症状

●防除対策

- (1) 県予察圃場(府中果樹研究所)における4月下旬の発病葉率は**13.3%**で、平年(**6.4%**)と比較してやや多い発生となりました(表1)。また、過去の調査データでは、4月下旬の発病葉率が高い年は、その後の5～6月の発病葉率も高く推移する傾向が認められています(図4)。
- (2) 既往の研究では、**収穫期の発病を抑えるためには、6月上旬以降の発病葉率を低く維持することが重要**とされています。このため、4月下旬の時点で発病が認められる園地では、**5月下旬までに防除を実施し、その後の病勢進展を抑えることが重要**です。
- (3) 本年4月の気象は平年より降雨が多く推移したため、感染に好適な条件で経過しました。今後も降雨日数が多い場合は発病が助長されるおそれがあるため、降雨前後の防除適期を逃さないよう注意してください。
- (4) 薬剤防除は、主要作物病害虫・雑草防除指針(表2)を参考に、登録内容を確認の

うえ実施してください。

- (5) 例年多発する園地では、果実への感染防止のため、早めに袋かけを行ってください。
- (6) 発病枝や生育不良枝は伝染源となるため、見つけ次第除去し、園外へ持ち出すなど適正に処分してください。
- (7) 病原菌は葉や果実の自然の開口部（気孔、水孔等）や傷口から侵入するため、風当たりの強い園地では防風ネット等による防風対策を行ってください。あわせて、コスカシバ、キクイムシ、モモハモグリガ等の害虫防除を徹底し、樹勢低下を防止してください。
- (8) 同一病原菌によって発生するスモモの黒斑病についても多発生が予想されるため、注意してください。
- (9) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

表1 県予察圃場（府中果樹研究所）のせん孔細菌病の発病葉率

モモせん孔細菌病 発病葉率（府中果樹研究所）											
年度/月旬	4月			5月			6月			7月	
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
2016	3.0	5.0	13.3	15.7	26.3	27.7	30.7	55.0	82.0	81.0	90.0
2017	0.7	5.7	6.7	10.0	10.0	14.0	10.7	14.3	23.0	38.3	44.0
2018	0.0	7.0	12.7	31.0	39.0	30.7	31.7	33.7	33.0	41.3	30.7
2019	0.0	2.7	6.3	14.0	24.7	20.0	17.3	16.7	29.0	25.3	40.7
2020	0.6	8.5	14.5	17.0	35.0	44.0	36.3	49.0	42.7	60.7	61.7
2021	6.0	22.3	21.7	40.7	43.7	41.7	31.3	36.3	35.7	23.3	18.7
2022	2.3	1.7	8.7	12.7	21.0	19.7	16.7	21.3	17.3	20.7	18.7
2023	5.0	4.3	16.0	15.3	16.7	22.0	15.0	18.3	16.0	22.3	25.0
2024	0.0	0.7	13.3	18.3	13.0	11.7	19.0	17.0	25.0	25.0	22.0
2025	1.0	6.0	9.3	13.0	14.3	11.0	22.0	24.7	24.3	16.0	13.3
2026	1.3	13.3									
平年値	1.9	6.4	12.3	18.8	24.4	24.3	23.1	28.6	32.8	35.4	36.5

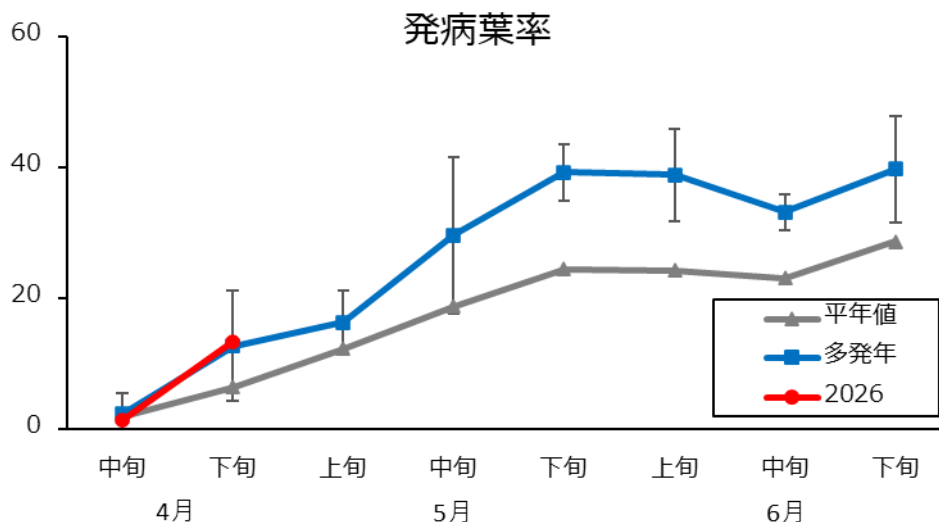


図4 多発年（2018、2020、2021年）と本年の発病葉率の比較

※エラーバーは多発年3か年平均の標準偏差を示す。

表2 モモに登録のある薬剤（主要作物病害虫・雑草防除指針抜粋）

作物名	薬剤名	サブグループ あるいは 代表的有効成分	FRAC コード※
モモ	マイコシールド	テトラサイクリン抗生物質	41
	バリダシン液剤5	グルコピラノシル抗生物質	U18
	デランフロアブル	キノン(アントラキノン)	M9
	マスタピース水和剤	-	- (生物農薬)

※FRACコードとは殺菌剤の作用機構（効き方）を抵抗性管理のために分類し、数字とアルファベットで分かりやすく表示した略号です。同じコード（同じ作用機構）の薬剤を連用すると耐性菌が出現するリスクが高まります。



香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針

https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichubojyo/byogaichu/sisin/byougaityuu_sisin.html

・住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。

・農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichubojyo/index.html>



農薬はラベルをよく読んで使用しましょう